



練習

今、運動会に向けて、一生懸命ダンスや種目の練習を子どもたちは重ねています。もし、運動会当日に「さあ、今からこのダンスを踊ってください」と言われたら、おそらく「えー無理、できない」となるでしょう。当然です。練習していないのですから。

同様に、子どもたちが子どもの時期に積み重ねておくこと—基礎的な学習や社会規範、集団生活の中での協調性、努力やそれを通じた達成感・成就感、時には失敗を通じた反省と成長など—は、やがて訪れる大人や社会人としての自分を支えるものになります。

つまり、子どもの時期に学校で学ぶのは、大人になるための『練習』のとも言えます。練習は調子よくできる時もあれば、ままならない時もあります。それでも、少しずつ練習を重ねることで、できることが増えていきます。

最近の報道等で、社会常識が不十分な大人や刹那的な生活をする若者を見ることがあります。それらを見るたびに、どのような成長過程をたどってきたのだろう、しかるべき時期にしかるべき学び（練習）が十分できていたのだろうかと思います。

「大人になったらそのうち色々できるさ」。たしかにその一面はあります。しかし、よりよい社会生活を営むためには、そこに至るまでの準備ができていることが多いほどいいとも思います。